

さざなみ

須崎市教育研究所 発行
第11号 令和6年11月13日

授業参観

11月6日（水）に安和小学校の5、6年生（複式）の算数の授業を参観させていただきました。
授業の内容は大まかにまとめると次のようになります。

5年生		6年生	
前 時	本 時	前 時	本 時
平行四辺形の面積を、 長方形の面積の求め方 に帰着させて考えてい る。また、平行四辺形 の面積は(底辺)×(高 さ)で求められることを 確認している。	既習の知識を用いて、 三角形の面積の求め方 を考える。	直方体の体積の求め方 (縦)×(横)×(高さ)を 四角柱の体積の求め方 (底面積)×(高さ)とし て捉え直している。	直角三角柱や円柱でも 四角柱のように体積を 求められるのかどうか を考察する。



複式学級では、学習リーダーが中心となって学習を進めます。教師の役割は、自ら学習を進める子どもたちの学びを信じて見守り、支える伴走者のようなものになります。

5年生は1人での活動なので、多様な考えに触れる機会が少なく、学びが深まりにくいのは事実です。しかし、担任の中谷先生が「図を使って説明してみて」と言葉で表現することを促すことで、本人が考え方の誤りに気付くことができていました。また、行き詰まった5年生に6年生が作成したヒントをロイロノートで共有することで、見方・考え方を広げ、深めることができていたと思います。



6年生はじっくり個人思考した後、モニターの前に自分たちで集まってお互いに説明をしあっていました。発表に対しては「ここは（ ）はいらないんじゃない？」「底面の見る場所が間違っているから

計算が合わないだけだと思う」とお互いに指摘し合うことができていました。考え方を仲間分けするときも「この考えは上と同じやね」「何で？」と疑問に感じたことを率直に伝えられていました。何気ないやり取りですが、このやり取りは心理的安全性が担保されていないと生まれないと思います。

授業後の中部教育事務所 松山 起也 指導主事のお話は、複式の授業づくりについてがメインでしたが、そのどれもが単式の授業でも共通して言えることだと思いました。これから目指す「児童生徒主体の授業」づくりにも関連すると思います。

松山指導主事のスライドより一部引用

【子どもたちが自分たちだけでできること】＝間接指導における子どもの活動

○問題の提示→読む ○個人で考えを書いてみる、調べる、まとめる ○板書を写す

○協働学習

- ・問題について考える ・分類する ・意見や気づきの発表 ・質問する ・解決方法を出し合う
- ・ポイントをまとめる ・説明する ・理解度確かめる ・共通点や相違点を考える
- ・練習問題や問題づくりに取り組む

【教師にしかできないこと】＝直接指導における教師の役割

○課題や問題を設定する ○全員がねらいに迫れているか状況を把握し、修正する

○ねらいに向けて理解を確かなものにしたり、より深く考えたりできるように働きかける

こうした活動は、形だけ真似して上手くいくものではないと思います。前述とも重複しますが、児童生徒が主体的に学習できるのは、心理的安全性が担保されているからこそだと考えるからです。今一度、心理的安全性を担保する学級経営についてもご一考ください。

心理的安全性が確保された集団に共通してある要素

話しやすさ

何を言っても
大丈夫！



助け合い

困ったときは
お互い様！



挑戦



とりあえず
やってみよう！

新奇歓迎



個性
どんと来い！

令和6年度 さざなみ1号より

さざなみ8号でもお伝えしましたが、話しやすい雰囲気のためには良い聞き手の存在が欠かせません。話し手を尊重した聴き方を学級内に浸透させることは、心理的安全性を保障する第一歩ではないかと思います。まずは、教師が児童生徒にとっての良い聞き手となっているかを振り返る必要があるでしょう。

また、担任が学級の児童生徒1人ひとりと対話をすることも大切です。児童生徒の困り事や悩み事を聞き取ったり、頑張っていることを価値づけしたりすることで、子どもたちの挑戦を励ますことができます。ここでも、担任のかかわりがモデルとなり、学級内に少しずつ浸透していくのだと思います。

先生方が学級で行っている工夫をさざなみでも発信していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。